

ファイナルレポート

国際コンポーネント・アセンブリ・エレクトロニクス製造専門見本市
 香港コンベンション&エキシビションセンター
 2018年10月13日～16日

2018年11月27日

electronicAsia 2018 を特徴づける新製品と最先端のソリューション
 業界の不確実性下、熱心なバイヤーが海外サプライヤーのオファーを探索

Summary

- 同時開催の Hong Kong Electronics Fair (Autumn Edition)とあわせ 1,043 社が出展
- 23,400 人以上が来場
- 独立調査によると 2019 年に最も成長する可能性がある電子機器は AV 製品 (17%)、次に電子／電気付属品 (14%)、デジタル画像処理 (9%)



Facts & Data

会 期	2018年10月13日(土)～16日(火) 午前9時30分～午後6時30分(最終日のみ午後5時まで)
会 場	香港コンベンション&エキシビションセンター
主 催	MMI Asia Pte Ltd Hong Kong Trade Development Council(香港貿易發展局)
規 模	5,900 m ² (2017年度 6,309 m ²)
出 展 企 業	11カ国から570社(2017年度:13カ国・地域から570社)
来 場 者 総 数	111カ国から23,415人(2017年度:118カ国・地域から25,785人)
主 な 出 展 品	半導体全般、パワー半導体部品、エンベデッドシステム、センサー、MEMS、プリント基板・その他回路基材、受託製造サービス(EMS)、相互接続技術、ケーブル、スイッチ&キーボード、受動部品、モーター・駆動部、アセンブリ・サブシステム、マイクロ波技術、電力供給、物流管理・装置製造(半導体・コンポーネント、マイクロシステム技術、プリント基板・その他回路基材、アセンブリ・モジュール・ハイブリッド、電子設計(ED/EDA)検査・計測、総合生産補助・生産サブシステム、生産関連サービス、サービス・出版、ブロードコムチップ、カメラモジュール、チップセット、コネクタ、フラッシュメモリー、センサー、タッチパネル、三次元視覚化テクノロジー、クリーンルームテクノロジー、ディスプレイ組立、ディスプレイ生産財、ディスプレイ製造(フラットパネルディスプレイ/FPD)、太陽電池・モジュール、太陽電池機械・部品製造、僻地太陽光発電システム、集光型太陽発電・集光型太陽熱発電、PVシステム技術・インバーター、トラッキング・マウンティングシステム等
専 用 U R L	www.electronicasia.com (英語)

2018年11月27日、世界中の業界関係者が、市場情報の交換と取引のために、4日間の electronicAsia 2018 に集まった。第22回目となる今回の見本市では、電源、プリント基板、EMS、ディスプレイ技術、センサー技術、キーボード類とスイッチ類のパーツとコンポーネントが展示された。



香港貿易発展局 (HKTDC) と MMI Asia が共同で開催した electronicAsia 2018 には、23,400 人以上の来場者が集まった。香港コンベンション・アンド・エキシビション・センターで同時開催されていた香港エレクトロニクスフェア(秋)の出展メーカーも、electronicAsia で電子機器のパーツやコンポーネントを調達していた。

互いに補完し合った、国際的な電子産業の縮図ともいえるこの2つの見本市では、1,043 の出展社とバイヤーを対象に、ビジネスの見通しと製品の動向についての調査が行われた。HKTDC が委託した独立調査によると、回答者の約 60% が最近の中米貿易摩擦が輸出実績に悪影響を及ぼしていると述べた。また、回答者の約 40% が、今年の自社の全体売上高は増加すると予想している。これは、2017 年に行った同じ質問の回答と比べて 13%ポイント低い結果である。

回答者は、2019 年に最も成長する可能性がある電子機器は AV 製品 (17%) で、次に電子/電気付属品 (14%)、そして、デジタル画像処理 (9%) が続くと答えている。ロボット用途に関しては、回答者の 67% が今後 2 年間の市場発展性見通しは明るいと答えている。ロボットが最大の市場潜在力を持つ用途として、最も多かった回答は娯楽目的 (40%) であり、家庭用 (36%)、医療用 (24%) と続く。

業界の動向について、これまで以上に様々なイベントで検討された。Sensor Technology Forum では、センサーの専門家であるドイツ・ダルムシュタット応用科学大学の Markus Haid 博士を初め、ドイツ・NKF Media の Pavel Romanenko 教授、ドイツ・イエーナのエルンスト・アッペ大学の Dietrich Hofman 博士、中国の Shenzhen Jiangcheng Technology の Rongchun Lin 氏は、ブロックチェーン、IoT、モバイル品質保証、および高度な運転支援システム (ADAS) アプリケーションに採用されるセンサーについて、具体的な見通しを共有した。

Lin 氏は、ADAS の動向は、レーダー、ライダー、カメラ、超音波センサーの需要を後押ししているとして、「ロードセンサーや車両センサーからのあらゆる種類のデータを統合し、車両のステアリング、ブレーキ、スロットルを制御することができる。同時に、システムは、拡張現実ヘッドアップディスプレイ (AR-HUD) を通して映像と音声情報を提供し、ドライバーが正しい判断を下すことを助ける。これは、同時ローカリゼーションおよびマッピング (SLAM) のテクノロジーと組み合わせられて、ヒューマンマシンインタフェース (HMI) の新しい方法を生み出し、運転を、より快適で、楽しく、安全にしてくれるだろう」と述べた。

Romonenko 氏のメインテーマは、ブロックチェーン技術であり、「信頼できるデータストレージを確保し、運用効率を向上させるために、ブロックチェーン・テクノロジーの採用を検討している企業が増えている。ブロックチェーンは暗号トークンを作ることができるため、企業はカスタマーエクスペリエンスを高めるロイヤリティ・ポイントとしての機能を持ったデジタル通貨を発売することができる。そうした技術は、スマートコントラクトやイニシャル・コイン・オファリング (ICO) を可能にするとともに、金融取引などに使用されていくだろう」と述べた。

香港電子フォーラムは、KEX Knowledge Exchange 社およびドイツ・INC Invention Center の Patrick Kabasci 氏、米国・メリーランド大学の Michael Pecht 教授、カナダの Intertek EWA 社 Ron Starman 氏、シンガポールの Viscom Machine Vision 社の Norbert Meuser 氏など、著名な専門家を集めた2つの見本市の中心的存在だ。ここでは、人工知能 (AI) が製品の信頼性と機能安全性をいかに向上させたかについて議論された。

Kabasci氏は、Industry 4.0が製品の信頼性をいかに向上させることができるかという点について、「インダストリー4.0は、インダストリアルデータ分析を使用して、生産状況の概要をリアルタイムで把握し、スマートな意思決定を可能にするという概念だ。確立されたパターンと現実的なモデルを介して、データの可用性を高め、予測可能性を向上させることにより、透明性を高めることができる」と、参加者に語った。

Meuser氏は、欠陥を自動的かつ効率的に見つけるように設計されたインテリジェント検査システムに関して、「マシンビジョンは人間の視覚に置き換わり、決定論アルゴリズムとプログラムされたアプリケーションに基づいて、迅速で信頼性の高い検査を可能にしていくことになる。自動光学検査では、管理条件下で画像を収集し、定義された基準に従って適切な画像情報を抽出することができる」と、述べた。

ほかにも、部品メーカーにとって未来への道標となる有益なイベントもあった。それは electronicAsia 内の専用ゾーンで行われた展示であり、そこでは、電源、センサー技術、ディスプレイ技術の世界、プリント回路基板とEMS、キーボードとスイッチ、電子部品、試験・検査機器などが紹介されている。

中国の Okystar Technology 社は、今回、初出展したメーカーの内の一社であり、同社は、スマートホーム・オートメーションと照明制御モジュールへの移行を強力に進めている。営業部長の Erica Teng 氏は、「反響は大きかった。既存の顧客が当社のブースを訪問してくれただけでなく、アルゼンチン、コロンビア、ポルトガルなど、様々な国からの新規顧客と出会うことができた」と、述べている。なお、同社は、マイクロコントローラ・ボードや同モジュールを初めとし、スターターラーニングキット、センサーモジュールの提供を専門としている。

初めての参加者にとって、同見本市はアジア市場への入り口となる。Transfer Multisort Elektronik 社は、900を超えるブランドの電子部品を取り扱うポーランドのオンライン販売代理店で、140以上の国と地域に顧客を持つ。

同社の中国マーケティングマネージャー、Dagmara Glowacka氏は、「中国とアジアでのプレゼンスを拡大するために、深セン市に事務所を開設した。今回、electronicAsiaには、当社をたくさんの人に知ってもらい、より多くの顧客を見つけるために、初出展した。既に、中国、インド、ドイツ、スウェーデン、イタリアのメーカーや取引業者など、たくさんの潜在顧客と顔合わせができています」と、述べた。

タイの大手EMSサービスプロバイダであるSVI Public社など、多くの出展社は、長年にわたり electronicAsia を主要なマーケティングプラットフォームにしてきた。SVIの事業開発マネージャー、Kanusit Boonrukanit氏は、「当社は、工業製品を初め、医療サービス、自動車および輸送、電気通信および自動車事業に至るまで、強力な顧客基盤を持っている。カンボジアに新設した当社工場は、顧客のニーズを満たすべく、当社の能力と効率を高めてくれた。昨年の見本市を通じて、当社はフランスの医療団体とのビジネスを成功させた。今年は、日本、米国、イタリア、ドイツなど、様々な国から当社のソリューションに大きな関心が示され、多くの新規顧客と繋がることのできた。その結果、去年より更に良い状況にある」と、述べている。

インドの電子部品の卸売業者および販売代理店である Campus Component 社のマネージングディレク



ター、Akhilesh Kumar氏は、「今回、新規調達先を求めて、初めて electronicAsia に参加した。中国から、TFT カラーパネルとサーマルプリンタのサプライヤー6社を新たに発見することができた。深セン市に本拠を置く TFT パネルのサプライヤーと、間もなく14,000ドル相当の注文を締結する予定であり、リセットブルヒューズについても、中国のほかのサプライヤーと交渉中だ。今年の結果は予想以上に良く、来年もまた見本市に参加の予定だ」と、述べている。

日本の、おおとり株式会社グローバルマーケティング部名古屋グローバルマーケティング部門のマネージャーであるミウラ・セイジ氏にとって、electronicAsia は常にビジネス開発のための優れた調達プラットフォームであった。同氏は、「75年の歴史を持つおおとり株式会社は、日本における電子部品、半導体、および計測機器の有名な販売代理店だ。現在、当社は主に台湾の会社から様々な電子機器の部品やコンポーネントを調達している。これまでのところ、Sha Yang Ye Industrial 社の自動車用モーター、OncQue Corporation 社のセンサー、Chih Kang Material 社のシートメタルなど、台湾のサプライヤー3社から興味深い製品がいくつか見つかり、発注対象として、モーター類で最大1万個、センサー類で最大10万個ほどのニーズがある」と、話す。



マレーシア・ImaxTech Electronics 社のゼネラルマネージャーである C. H. Ooi 氏は、electronicAsia に毎年訪れているバイヤーの一人であり、「electronicAsia は、様々な最新の製品を提供する優秀な見本市だ。サプライヤーと出会い、そして、そこから新しいものを見つける絶好の機会となっている」と、話す。ImaxTech 社は、この地域で事業を展開する電子部品供給におけるリーディングカンパニーであり、政府部門向けと海外の顧客向けに、統合ソリューションを設計し、提供している。「今年、香港の既存のサプライヤー Mobicon Holdings 社で新製品をいくつか見つけ、5万

ドルから6万ドルのLCDと測定機器の注文を出しているところである。カメラとセンサーを含むGPS関連の追跡装置に関しても、中国の新しいサプライヤー数社との協議が進行中で、その発注額は10万ドルから20万ドルの規模である」と、同氏は話す。

次回の electronicAsia は、2019年10月13日から16日、香港コンベンション&エキシビションセンターにて開催予定だ。

詳細情報は、専用ホームページまで:

www.electronicasia.com (英語)

資料請求、各種お問合せ先: **メッセ・ミュンヘン 日本代表部**
株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目20-3 ノアズアーク虎ノ門5階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語/ドイツ語)